

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和2年度第1回 さいたま市岩槻人形博物館運営委員会
2 会議の開催日時	令和2年7月15日(水曜日) 午後2時00分～午後4時20分
3 会議の開催場所	さいたま市にぎわい交流館いわつき 多目的室
4 出席者名	新井委員長、是澤委員、新委員、大越委員、 加藤委員、清水委員、抜井委員、三次委員、 森田委員
5 欠席者名	池田委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) (1) 運営方針について (2) 今後の事業計画について (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴者の数	0名
9 審議した内容	(1) 運営方針について (2) 今後の事業計画について
10 問合せ先	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館 電話 048-749-0222 FAX 048-749-0225
11 その他	—

令和2年度第1回岩槻人形博物館運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和2年7月15日(水) 14時00分～16時20分
- 2 場 所 にぎわい交流館いわつき 多目的室
- 3 出席者 (1) 委員(9名)(五十音順)
新井久代委員、新雅史委員、大越久子委員、加藤三郎委員、是澤博昭委員、
清水一郎委員、抜井ゆかり委員、三次宣夫委員、森田 由美子委員
(2) 事務局
スポーツ文化局 大西局長、野口部長
岩槻人形博物館 林館長、川田副館長、宮野参与、今井主幹
菅原係長(学芸員)、古谷主査、
平井主査(学芸員)
※ 関連施設「にぎわい交流館いわつき」から出席
中村館長、大金運営統括マネジャー
(3) 欠席者(1人)
池田直人委員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内 容
(1) 開 会
(2) 挨拶 スポーツ文化局長挨拶
(3) 委員の紹介
(4) 委員長・副委員長選出 委員互選により、委員長に新井委員、副委員長に是澤委員選出
(5) 議 事
① 運営方針について
② 今後の事業計画について
(6) その他
(7) 閉 会 館長挨拶

<議事内容要約>

議事① 運営方針について

事務局から資料について説明

委員長 運営方針について、意見をいただきたい。

委 員 国内だけでなく、世界でも唯一であろう公立の人形専門博物館が開設したが、グローバルな面とローカルな面を、どのようにバランスをとっていく方針なのか。

委 員 ミュージアムは、元来、国際的に人々から尊敬を集める施設である。それと並行して、この岩槻の地に開設された由縁や立地優位性も大切であり、グローバルとローカルの

面については、急がずに、価値を見定めながら、一步一步進めていくべき。

委員 地域にとって素晴らしい拠点ができたと。拠点を生かすには、地域の事業者が発展し、次世代に継承していくことが大切で、そのためには、まちの回遊性等も重要になる。「まちの戦略会議」では、新型コロナウイルスの影響で従来通りのイベント開催は難しいため、人口の増えている岩槻駅西口の住民や子供たちを、東口へ誘導するような取り組みを考えている。

委員長 地域との連携については、どのように取り組んでいるのか。

事務局 昨年度までは博物館開設準備室がとりまとめを行っていたが、今年度からは都市戦略本部の未来都市推進部に引継ぎ、連携事業に取り組んでいる。

委員 地域の持つ歴史、歳時記等をストーリー化して、再認識してもらう必要がある。博物館を情報の発信地にとらえ、まちの活性化の起爆剤としたい。

委員長 運営、広報について、意見ををお願いしたい。

委員 博物館の認知向上のためには、最初に広報を集中的に実施し、花火を打ち上げることが効果的。コアな支持層であるシニア女性向けの雑誌等のライターに掲載記事を書いてもらう試みや、キャッチコピーを作ってもよいのではないかと。また、岩槻駅を降りた時、「人形のまち」というイメージが全く感じられないのは非常に残念で、何か演出を考えた方がよい。「岩槻は日本一、歳時記を大切にすまち」宣言等でアピールするのはどうか。

委員長 キャッチコピーや、シニア女性向け雑誌等での効果的な広報活動をどう考えているのか。

事務局 キャッチコピーについては、今後意見を聞きながら検討して行きたい。雑誌広告に関しては、これまでに「なごみ」「目の眼」で10ページ程度の記事掲載を実施しており、プレス内覧会等と合わせて、開設までの広報活動は、十分な認知、集客効果があったと考えている。新型コロナウイルスの影響で、仕切り直しとなってしまったので、改めて周知が必要と考えている。

委員長 博物館と観光についての意見ををお願いしたい。

委員 地域の魅力づくりと認知向上が大切で、プレスツアーを招いても面白い。シニア女性を含めた三世代が訪れる町であることや五節句の体験イベントをアピールしたらよい。

委員 まちの観光とミュージアムのイメージは必ずしも一致しない。まちのイメージを重視するあまりに、本来ミュージアムが目指すべきことが縛られてしまう場合もある。ミュージアムにとって大切なことは、リピーターを増やすこと。館自体の魅力づくりは、時間をかけて行うべき。

委員 このミュージアムの価値は、コアな層だけではなく、幅広い層にアピールすることで、ファンのすそ野が広がっていくと思う。学芸員の思いや苦勞を伝えていくことが魅力づくりにつながるのではないかと。

館長 新型コロナウイルスの影響で、現状はスタートラインに戻った感じである。委員の意見を参考に、地元や「にぎわい交流館いわつき」との連携を含めて、今後計画の見直しと新しい展開を図っていきたい。

- 委員長 業界、自治会とのかかわりについて、意見をお願いしたい。
- 委員 節句人形の購入の中心がネット販売になっており、節句時に岩槻を訪れる人が少なくなっている。博物館には集客とともに、人形への関心を持つ人を増やすことに期待している。業界では後継者が減少しており、50、60歳代が若手と言われている状況である。
- 委員 まちのにぎわい、集客の意味からは、「にぎわい交流館いわつき」の活用が重要になってくる。博物館へ手軽に来館できるように、表示や展示解説の工夫も必要ではないか。
- 委員 観光施設であれば「客を呼ぶ」という考えもあるが、観光施設と違う博物館としての機能があるからこそ、コアな価値が生み出され、それがグローバルな発信を可能にし、全国からの来館やリピーターの増加につながると思う。
- 局長 観光やまちおこし等を含めて、地域が期待するすべての機能を博物館だけで担うわけではない。市のさまざまなセクションが分担して行っており、それぞれと調整し、連携を図っていききたい。博物館には文化・教育施設としての使命があり、集客に偏重することなく、設置目的を果たすことができるように、しっかりと考えながら進めていきたい。
- 委員長 五節句イベントについて
- 委員 (個々のイベントについて説明)
- 委員長 質問等も出尽くしたので、議事①について、終了とする。

議事② 今後の事業計画について

事務局から資料について説明

- 委員長 実施体制等について、意見をお願いしたい。
- 委員 学芸員が扱う事業が多く、オーバーワークにならないか、それにより事故が起こらないか心配。特に、普及事業については、ボランティア等外部人材の協力、活用が重要となる。
- 委員 展示機会が増えることは、人形資料の負担にもつながり、次の世代に遺すための博物館であることを考えると、人員配置も含めて事業体制を考えた方がよい。
- 委員長 集客、観光について、意見をお願いしたい。
- 委員 マンパワー不足のなかで、集客を図るためには、歳時記と展覧会を組み合わせ、媒体訴求、イベント展開、地域連携の3つを同時進行させて実施することが効果的だと考える。
- 委員 博物館と「にぎわい交流館いわつき」との間に、ワークショップに参加したり、カフェを利用した場合、博物館の入館料が割引になるという、相互割引の取り決めは考えているのか。
- 事務局 相互割引については相談も来ており、「にぎわい交流館いわつき」内のカフェとだけではなく、地域商店会も含めて、相互にメリットがあるような形での実施を検討している。
- 委員 学校団体の来館を通じて、その家族にも情報が共有されるので、館の認知向上が期待できる。他の地域では、ボランティア、特にシニアボランティアを活用している例が多く、うまく連携が取ればよいと思う。また、ワークショップと博物館の展示内容

- が有機的なつながりを持つために、スタッフ同志の情報の共有が大切になる。
- 委員 学芸員のマンパワーを軽くするために、学芸員の思いや知識をパネルにするとか、ボランティアとの情報共有の機会を増やす等、学芸員がやらなくてもよいことを増やしていった方がよい。集客面では、歳時記、展示内容、地域イベントをつなぐ、中間的な役割として、「にぎわい交流館いわつき」が持つ意味は大きいと思う。
- 委員長 事務局から「にぎわい交流館いわつき」との連携について、説明をお願いしたい。
- 事務局 人形文化に関するアカデミックな講座を博物館が行い、体験ツアー的なワークショップを「にぎわい交流館いわつき」が行う、という役割分担ができています。例えば、御所人形の展覧会の際には、胡粉を使った学術的な講座を博物館が行い、化粧についてのワークショップを「にぎわい交流館いわつき」が実施する。今後は、定期的に打合せを行うとともに、例えば、市広報誌の広報枠を共通して確保し、関連したイベントと一緒に掲載する等、相乗効果が期待できる取り組みについても検討を行いたい。
- 委員長 質問等も出尽くしたので、議事②について、終了とする。以上で議事はすべて終了とする。

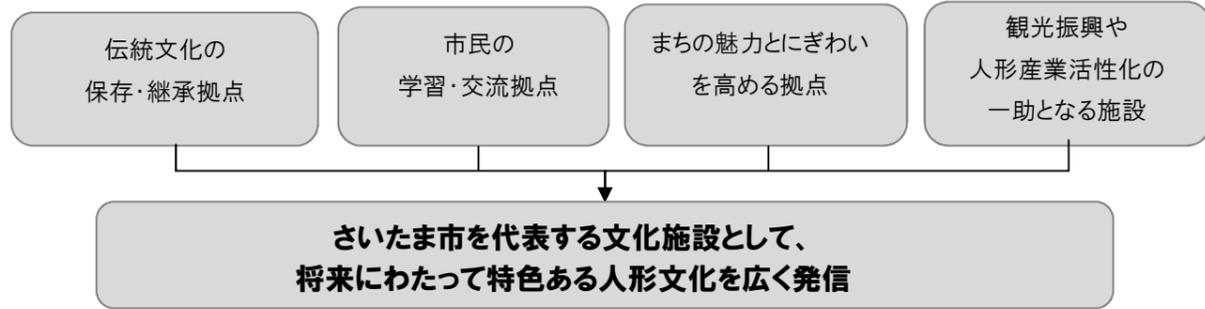
1. 施設コンセプト

さいたま市岩槻人形博物館整備

伝統のある人形文化の振興を図るための拠点施設の創造

岩槻は、日本有数の人形生産地として知られており、その職人技術は、江戸時代に花開いた衣装人形や木目込み人形の伝統を受け継ぐものであり、日々の生活の中に、人形が身近なものとして根付いています。このように「人形のまち」として知られる岩槻で、育まれ受け継がれてきた伝統のある人形文化(保存、継承と普及)の振興を図るための拠点施設として、岩槻人形博物館を整備します。

さいたま市岩槻人形博物館の役割



施設コンセプト

人と人形の歴史を探り、
未来へと人形文化を継承する博物館



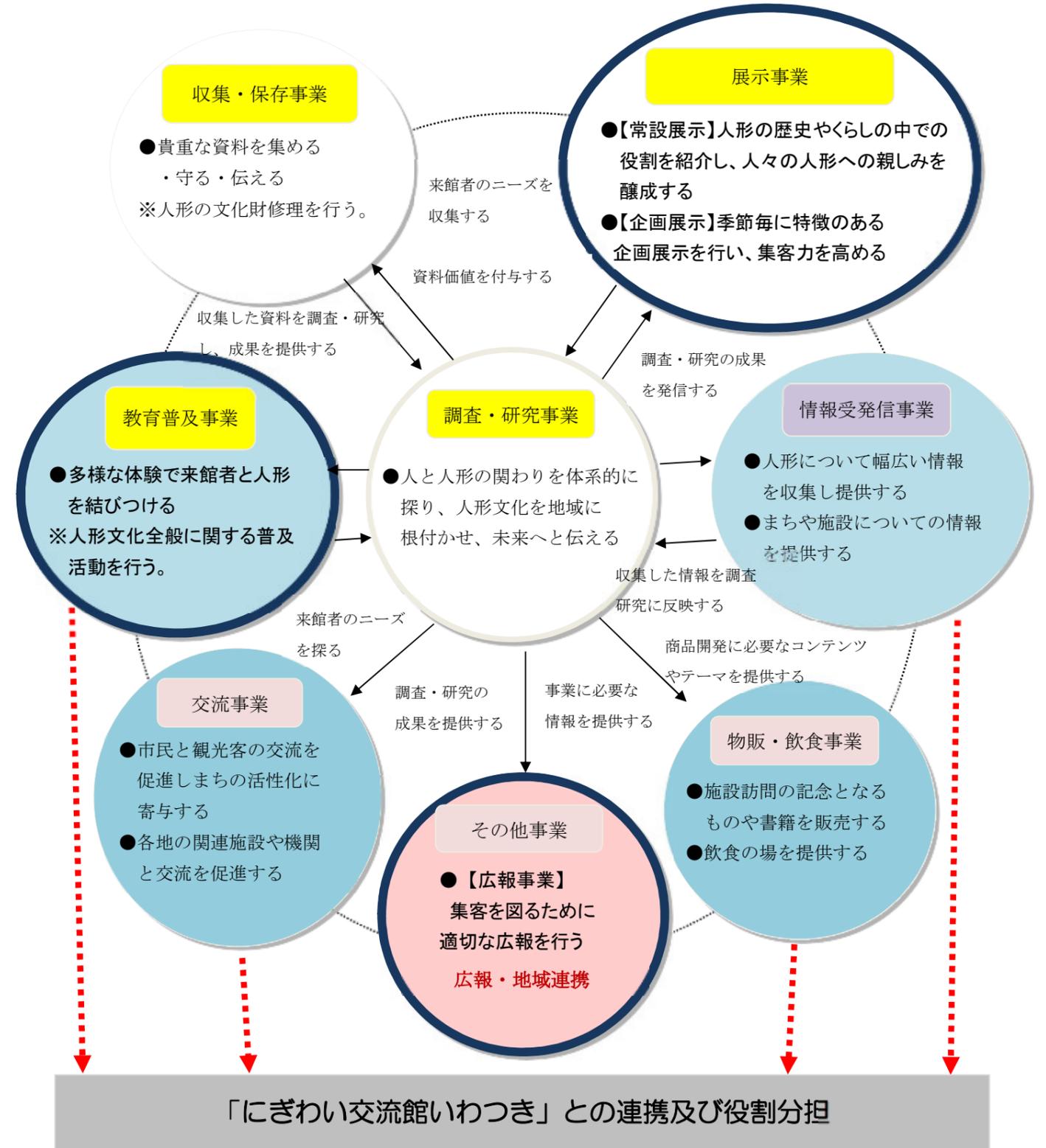
(開館記念式典)



(オープニングイベント)

2 事業活動の全体構成

「日本人と人形の歴史を調査・研究し、その成果を展示などを通じて市民を中心とする人々に広く公開することで、人々の人形への親しみを醸成し、人形文化を未来へと継承する」施設の根幹となるのが調査・研究事業です。また調査・研究事業と各事業は円滑な連携を図ります。



3. 広報事業

1. さいたま市岩槻人形博物館の整備趣旨

人形のまち岩槻で、地域資源である人形文化の振興を図るための拠点施設としてさいたま市岩槻人形博物館が令和2年2月22日の開館にあたり、年間来館者数を7.4万人(目標)と設定しています。

さいたま市内外の顕在的・潜在的利用者に魅力を訴求し、さいたま市岩槻人形博物館への来館促進を目的として「広報計画」を策定しています。

2 アプローチの考え方

(1) 魅力・訴求ポイントについて

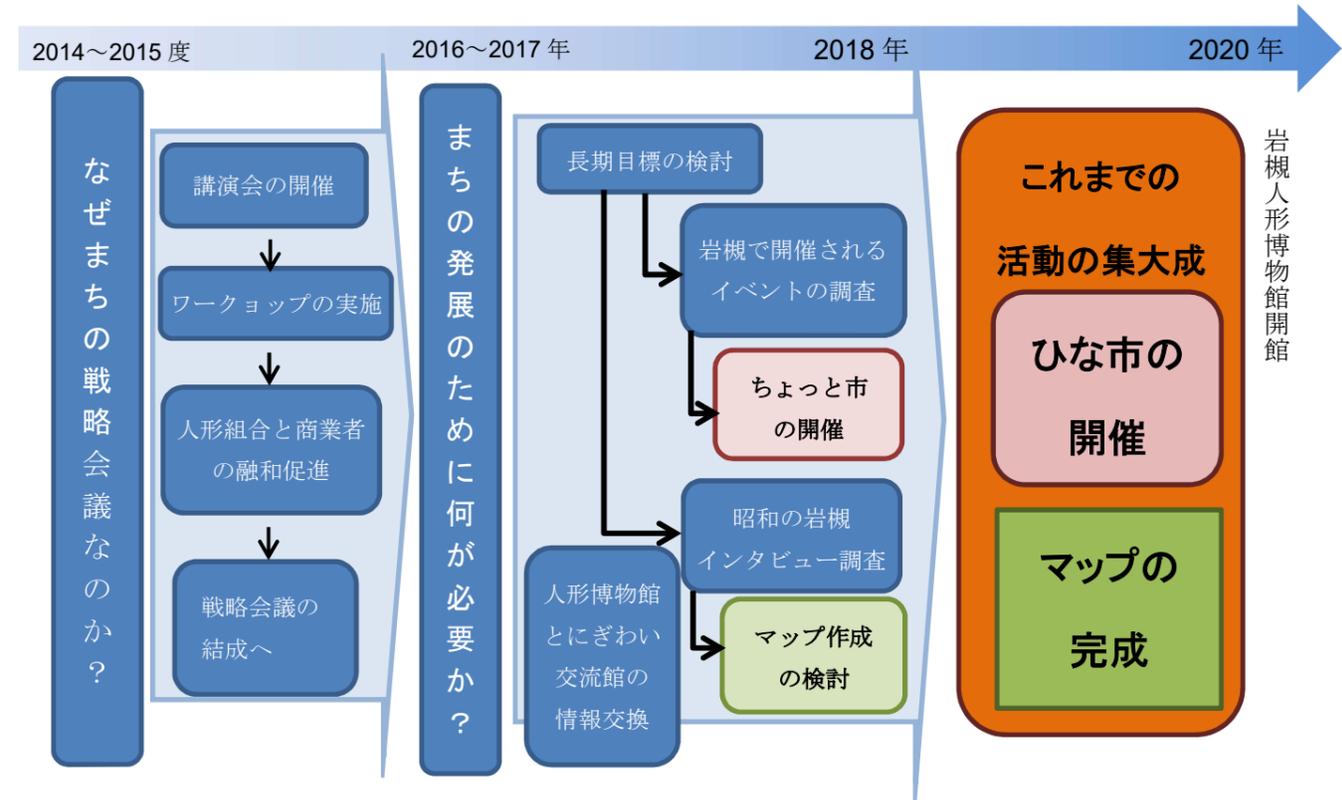
1	日本初の公立人形専門博物館 公立の博物館で「人形専門」かつ「公立」のものは日本初。
2	最高レベルのコレクション 西澤笛畝や浅原革世のコレクションなど5,000点以上。
3	まち全体(岩槻)で人形文化を表現 岩槻人形博物館をコアとして岩槻のまち全体で人形文化を体感できる。

(2) ターゲットについて

重点区分	ターゲット層	エリア	詳細
メイン	シニア女性	主に 関東	人形や日本文化に高い関心があり、観光意向・旅行意欲の旺盛なシニア女性。
	訪日外国人 (インバウンド)	主に 関東	中長期的なボリュームゾーン。人形や日本文化に高い関心があり、東京からのアクセスの良さもポイント。
	日本文化に高い関心	関東	茶道や神社仏閣を含め、日本文化全般に関心の高い層。盆栽とも親和性がある。
	人形に高い関心	関東	ピンポイントに訴求するのは難しいが、類似イベントへの関心、検索履歴などによりターゲティングを実施。
サブ	日本歴史に高い関心	関東	神社仏閣への観光などいわゆる歴史観光を行う層。
	アート・美術に高い関心	関東	美術館めぐり、伝統工芸の鑑賞・購入の意向が高い層。

4. 地域連携

【岩槻まちの戦略会議活動経過】



1. 展示事業

(1) スケジュール

当館は2月22日にオープンしたが、コロナウイルス感染防止のため、3月2日から臨時休館となった。6月2日から常設展示のみ再開したが、企画展や関連イベントは中止や延期となり、スケジュール変更を余儀なくされた。
当初、開館2年目は春に雛祭り企画展、夏期に夏休み親子向けの企画展、秋に特別展、冬期もしくはGWにテーマ展(特集陳列)という、平年モードのスケジュールに移行する予定であったが、1年目の記念事業が大幅に減ったこと、東京オリンピックが来年開催になったことなどから、2年目も特別な内容のスケジュールを想定することになった。

	2020年度											
	2020年									2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展覧会				7/11(土)~8/23(日) 【39日間】 開館記念名品展 「雛人形と犬笛・天児・這子」			10/3(土)~11/23(月・祝) 【45日間】 特別展「こどものかたち —創作人形の力展」				1/30(土)~3/21(日) 【44日間】 企画展 「天野家の雛祭り(仮)」	
イベント その他						常設展 展示替え			常設展 展示替え			常設展 展示替え
関連									●WS NIN NIN LAB ●WS ポチ袋		●WS ふじ雛	
											ましかど雛めぐり	
	2021年度											
	2021年									2022年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展覧会	4/24(土)~6/6(日) 【39日間】企画展 「御所人形—輝く肌の魅力 (仮)」			7月中旬~9月上旬 企画展 「オリンピック記念名品展 (仮)」			10月中旬~12月上旬 特別展「人形をひのき舞台に —西澤笛鮎とその周辺の人々 (仮)」				1月下旬~3月下旬 企画展 「雛祭り展(仮)」	
イベント その他			常設展 展示替え			常設展 展示替え			常設展 展示替え			
関連											ましかど雛めぐり	

(2) 各展覧会の概要

① 「開館記念名品展 雛人形と犬笛・天児・這子」

会期：2020年2月22日(土)~3月1日(日)

2020年7月11日(土)~8月23日(日)

担当：主 菅原千華/副 平井美江

概要：開館を記念した開館記念名品展。当初、I「雛人形と犬笛・天児・這子」、II「御所人形—輝く肌の魅力」、III「衣裳人形と市松人形」と、東京オリンピックが開催される8月まで3期連続開催予定であったが、すぐに臨時休館となったため、I期名品展を夏期に再公開することになった。西澤笛鮎コレクションを中心に当館が所蔵する雛人形を中心とした名品を紹介してい



展示風景

出陳点数：33点

関連行事：トークセッション、講演会を予定していたが中止となった。

学芸員による展示解説は3月1日までに2回実施した。

再公開中はコロナウイルスの流行状況をみながら、実施を検討予定。

刊行物：開館時に刊行した名品選図録があるため、兼ねる形とした。

来場者数：2月22日~3月1日(9日間)の来場者数 10,732名

② 特別展「こどものかたち—創作人形の力展 ~平田郷陽・野口光彦を中心に~」

会期：2020年10月3日(土)~11月23日(月・祝)

担当：主 蟹沢真弓/副 平井美江

概要：昭和初期に、人形芸術運動で人形の芸術的価値を高めることに尽力した、平田郷陽(1903-1981)と野口光彦(1896-1977)の二人の人形作家を中心とし、主に職人から創作人形作家への道のりをたどった作家たちによる、子供や親子のかたちを表した作品を展示する。彼らの作る「こどものかたち」を通して、美しさや、現代にまで通じる、人形の持つ「力」を紹介する。

出陳点数：37点程度

関連行事：

①講演会 演題：「ハッピーのうつわ：野口光彦を中心に」

講師：今井陽子氏(東京国立近代美術館工芸館主任研究員)

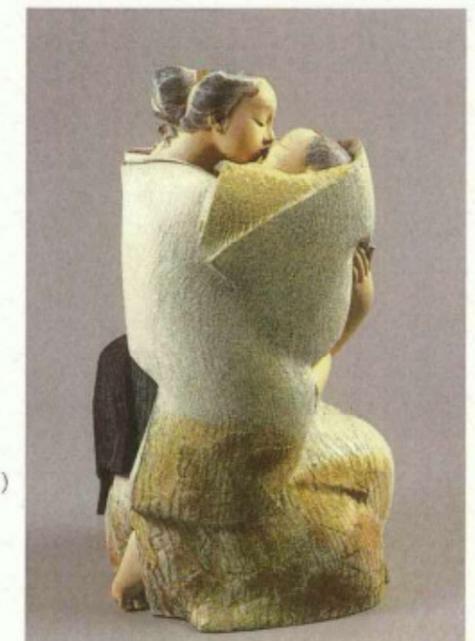
②講演会 演題：「『創作』のありか

—郷陽、光彦、堀柳女をめぐる—

講師：本橋浩介氏(佐倉市立美術館副主幹・学芸員)

③展示解説 会期中4回開催

刊行物：図録(A4・72ページ程度、価格未定)



平田郷陽作「抱擁」

③ 「天野家の雛祭り—人形が彩る商家の暮らし— (仮)」

会期：2021年1月30日(土)～3月21日(日)

担当：主 岩田明日香/副 平井美江

概要：2018年、化粧水「ヘチマコロン」の販売で知られる天野家より、日本橋の老舗人形店・永徳齋で誂えられた節句人形をはじめとする約600件の人形資料が当館に寄贈された。天野家では、子供の誕生に際して節句人形を誂え、結婚の際には嫁ぎ先に人形を持参した。本展では、開館一周年を祝って天野家の雛人形を一堂に公開するとともに、人生の節目や日々の暮らしを人形と共に過ごした昭和初期の商家の暮らしを紹介する。

関連行事：①講演会

②ワークショップ「雛道具の世界 組香をやってみよう」

③展示解説 会期中4回を予定

刊行物：パンフレット(8ページ 無償頒布予定)



天野家の雛段

④ 「御所人形展—輝く肌の魅力— (仮)」

会期：2021年4月24日(土)～6月6日(日)

担当：主 菅原千華/副 蟹沢真弓

概要：当初は開館記念名品展Ⅱとして前年4月～6月に予定していたが、今期に延期した。ふっくらと肥え、輝くような肌が魅力の童形の御所人形は、上層の人々に愛された格調高い存在である。そのルーツとされる裸嵯峨や這子、見立や三ツ折など様々なタイプの御所人形、近代作家の御所人形など、当館が蔵する名品を紹介。

出陳点数：37点

関連行事：①講演会「江戸美人の流行通信—白の美意識— (仮)」

講師：村田孝子(ポーラ文化研究所シニア研究員)

②ワークショップ 未定

③展示解説

⑤ 「オリンピック記念名品展 (仮)」

会期：2021年7月中旬～9月上旬

担当：主 平井美江/副 蟹沢真弓

概要：東京オリンピック・パラリンピックは日本文化に対して世界の注目が集まる機会であり、人形の魅力を紹介する名品展を開催する。常設展示室と企画展示室を連動させ、多様な人形を紹介する。海外の来館者のため、海外の人形も一部紹介する。

関連行事：未定

刊行物：パンフレット(日本語・英語版、ページ数未定、無償頒布予定)



御所人形 裸童



衣裳人形 唐子遊

⑥ 特別展「人形をひのき舞台へ—西澤笛畝とその周辺の人々— (仮)」

会期：2021年10月中旬～12月上旬

担当：主 菅原千華/副 岩田明日香

概要：当館コレクションの礎を築いた西澤笛畝(1889-1996)は、日本画家、人形玩具研究家・収集家として活躍し、人形の文化芸術振興に寄与した。笛畝の日本画作品や玩具絵、著書、古写真、コレクションを通じ、人形芸を芸術の枠組みへと押し上げた足跡を振り返る。

関連行事：①講演会

②ワークショップ

③展示解説

刊行物：図録(A4 ページ数未定、価格未定)



笛畝 タイ・バンコクの玩具店にて

⑦ 「雛祭り展 (仮)」

会期：2022年1月下旬～3月下旬

担当：主 蟹沢真弓/副 菅原千華

概要：館蔵の雛人形の名品のほか、特集展示として、野口光彦をはじめとした創作人形作家らが制作した雛人形を紹介する。近代御所人形の創始者として知られる光彦だが、元々雛人形の頭師の名手の家系に生まれ、雛人形も多く手掛けていた。稚児雛十五人揃をはじめ、館蔵の光彦の雛人形等を一堂に展示する。

関連行事：未定

刊行物：パンフレット(A4、4～8ページ程度、無償頒布予定)



野口光彦作「稚児雛」

2. 教育普及事業

(1) 博学連携(学校見学)

博学連携などの普及事業については平年モードとなる2年目から始動予定であったが、開館直後から見学希望が相次いだため、受け入れ態勢を整えている。狭い館内で100名を超える児童の見学、体験動線をどのように作るかが課題であり、最大で児童を3グループに分けての見学コースを設定している。

コロナ関係でキャンセルも相次いだものの、現時点(7月13日現在)で30校の見学申し込みがある。

(2) ワークショップ・ボランティア

展示解説とワークショップ補助ボランティアの立ち上げを進めている。団体見学が増える10月頃の始動を目指し、さいたま市大宮盆栽美術館の協力のもと、コアメンバーの選出と研修プログラムを検討中。

<ワークショップ予定>

①NIN NIN LAB なかのヒミツ・桐粉編 / ゲストティーチャー：岩槻人形協同組合 頭職人 / 定員16名 / 小学生対象

桐の粉の粘土をこねてカタチを作る。伝統的な人形の「中身」を体験し、知る講座。

②つくりろ、ポチ袋 / 講師：当館学芸員 / 定員20名 / 小学5年生以上

お正月を前に、当館所蔵の人形モチーフのポチ袋作りチャレンジ。

③つくりろ、おひなさま -ふじ雛の絵付け体験- / 講師：当館学芸員 / 定員20名 / 小学3年生以上

雛祭りの時期のイベント。当館蔵の西澤仙湖考案「富士雛」をイメージして、世界遺産・富士山型のおひなさまに絵付け体験。